

世界遺産登録に向けて

鶴子銀山(1) 鉄吹炎の如く ― 銀山発見譚 ―

『佐渡国略記』に収められている「佐渡古実略記」に、「鶴子銀山立始り之事」として、銀山発見の経緯が書かれています。これによると、「天文十一年(1542)、越後国茂右衛門という者数年当国へ商に渡海、ある時夜に入り沢崎沖を馳通り船中より見れば、沢根に当り鉄吹炎のごとく光空に移り怪しければ、近く船を寄せ見れば、沢根の奥山に金氣の立にぞありける」とあります。

島根県の石見銀山発見譚が載る『銀山旧記』にも、「はるか南山を望むに熾然なる光あり」とあり、鶴子と同様に山が光っていたことが書かれています。

18世紀前半にまとめられた鉱山技術書である『山相秘録』には、5月頃頃の雨上がり南の方角の山を見ると、「清翠の中に別に霞光瑞靄を発して、鮮明他に異なる所あるは、即ち諸金含有の山相なり」と、これらの伝承を裏付けるような記述があります。

明治20年代にまとめられた江戸幕府役人の聞き書き『旧事諮問録』に、最後の佐渡奉行で、後に相川県参事

となった鈴木重嶺の語った話が載っています。それには、「私が江戸に帰る時、佐渡帰りのワラジ履きの外国人と一緒にあった。彼が語る事は、佐渡が金の多い所であることは新潟から見てもわかる。なぜかといえば、闇夜でも佐渡は金光を放つので、他方の暗夜と違って明るい。それで、私も佐渡に戻る時に試してみたら、江戸の闇夜と違い、幾分か光明があるようだ」とあります。

「鉄吹炎のごとく光」とある鶴子銀山発見譚も、あなたがち荒唐無稽の話ではないようです。



鶴子銀山の遠景

◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136

地域おこし協力隊の活動を紹介します



近藤 千扇さん

配置地区 佐渡棚田協議会・猿八地区
配置時期 平成28年2月着任
出身地 山形県鶴岡市

佐渡市・配置地区の印象

いつでも自然がそばにあつて心を和ませてくれる島、それが佐渡でした。着任直後に訪れた猿八は深い雪に覆われ、自然の厳しい一面を目の当たりにしましたが、そんな四季の変化を身近に感じられる場所だからこそ魅力があると思います。

配置地区(佐渡棚田協議会・猿八地区)での活動等

佐渡棚田協議会の運営支援として、今年7月14〜16日に佐渡で開催される「第22回全国棚田(千枚田)サミット」の情報発信や企画運営に携わっています。全国棚田(千枚田)サミットは、生産者の高齢化や担い手不足

により失われつつある棚田を残そうと、年に一度、全国各地から人々が集まるイベントです。

今回、新たな試みとして主に若者を対象に棚田の未来について話し合う「U30(アンダーサーティー)棚田サミット」という企画の内容を考えたり、棚田の現況を島内外の方に知っていただくため、種まきや田植えの様子を棚田協議会のホームページで紹介しています。最近では、サミットの交流プログラムでガイドや伝統芸能を披露してくれる小中学生の練習風景も取材させていただきました。

今後の抱負

取材を通して、棚田には苦労や笑顔、そして生産者の方の熱い思いが込められていることを知りました。その一つ一つを「物語」として伝え、多くの人に棚田に興味を持ってもらうことが今の目標です。また、サミット一辺倒でかわれずにいる猿八地区についても魅力を見つけていきたいです。よろしくお願います。

◆市役所地域振興課地域振興係 ☎63-4152